

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470100658
法人名	社会福祉法人 自立共生会
事業所名	ひかりの里
所在地 (電話番号)	桑名市新西方3丁目187番地 (電話) 0594-23-9292
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 11 月 27 日(木)

## 【情報提供票より】 (H20年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 12人, 非常勤 7人, 常勤換算	15.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨ACL 造り		
	3 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4,5000~60,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円 <small>退居時、居室修繕後、残金を返金</small>	有りの場合 償却の有無	有(1ヶ月後償却5万円) 無(5万円)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要( 11 月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	72 歳	最高	103 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ウエルネス医療クリニック 山本総合病院 平田循環器病院 スマイル歯科
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>新興住宅地にあるグループホーム自立共生「ひかりの里」は三世代交流共同生活住居で、3階建ての3ユニットになっている。1階部分に放課後児童クラブ「パンの木」を併設している。お年寄り、子ども達とが三世代擬似家族としてそれぞれの能力をいかして助け合い、互いに刺激あつて、ケアの相乗効果を実現させている。また、防犯パトロール、地域サポート体制なども行なっており、認知症の人と一緒に住む町づくりの核となっている。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>苦情受付の明示に関して、重要事項書にも三者(グループホーム側・市の担当課・国保連合会)の住所並びに電話番号等、詳細な連絡先の記載をお願いしたい。他の項目については改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>3ユニットの各主任でまとめたものを、職員が閲覧し確認している。但し、88項目~100項目までは全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1度の開催がある。行政、地域包括支援センター、民生委員等の参加があり、外部評価等について話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎回の運営推進会議には家族も参加し、意見も出されている。日常的にも意見や苦情等何でも申し出てもらうよう促しているが、これまでに特に問題になるような苦情は出されていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の回覧板置き場や自治会役員会会場として施設を開放しており自治会役員等の利用がある。また、放課後児童健全育成事業・事業所内保育等も行っており子どもや父兄の出入りがあり、地域との交流・連携はできている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人(自立共生会)としての理念を共有しながら、グループホーム独自のものとして3ユニットが「地域の中で地域の役割をしながら地域貢献をする」「お年寄りの底力を生かそう」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングで常に施設長、管理者、職員間で理念について話し合わせ意識づけができています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ参加し、施設を自治会の回覧置き場や自治会役員会会場(新西方3丁目南)として提供している。また事業所内保育の幼児と利用者との防犯パトロールで、空き巣などの犯罪が減少し、住民に喜ばれるなど地域に貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は3ユニットの主任がまとめたものを職員があとで閲覧し確認している。外部評価での改善点についてはミーティングで話し合い見直しや改善はされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度は2か月に1度、平成19年度から市の方針により3か月に1度、初めは利用者、民生児童委員、家族と職員で開催し、5回目から市高齢福祉課、7回目から地域包括支援センターも加わり活発な話し合いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報収集や事故報告等についての報告や話し合いがある。	○	介護保険の保険者としても市は重要な存在であり、地域密着型サービスとしても積極的な連携のさらなる働きかけを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「里だより」で暮らしぶりの写真を添えて報告し必要時には電話で近況報告を知らせている。金銭管理の明細書については月1回郵送し出納を明らかにしている。また職員の異動等については、年度毎に写真入りで、職員の自己紹介を郵送し報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や訪問時の機会を捉え、家族等に要望や意見を聞いている。	○	苦情等直接事業所に言い難いことについて、重要事項説明書の苦情・相談窓口は、施設代表者となっている。施設以外の外部の人に家族等が意見・苦情をいう場が他にも(市の担当課・国保連合会等)あることを、重要事項書にも明記していただくよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって環境の変化は敏感である。全職員が各階の利用者の変化をいち早く把握し迅速な対応ができるよう、サポート勤務者(職員全員が交替制)を3ユニットで1名置いているので、利用者との顔は馴染んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に研修の情報を提供している。その他に段階に応じた研修と内外研修があり、年1回発表の場が与えられ、職員の資質向上と研鑽に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	桑員地区(10事業)との交流は行われていないが、三重県グループホーム連絡協議会に入り交流の機会がある。地域の同業者との相互職員の実習受け入れを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの入居では利用者も不安がある。本人・家族との面談や見学で雰囲気に馴染んでもらい、不安を解消するため他の利用者にも紹介しながら一緒にお茶を飲んでもらい、馴染めるような工夫をしている。		
otixya					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	放課後児童健全育成事業・児童クラブ パンの木の子供たちと「くど」(かまど)でのごはん焼きなど、日常のかかわりを通して子供たちの教育、心の発達、生活力の育成につなげる取り組みが行われている。こうした活躍する場があり、利用者は自分の居場所を見付けることができるし職員も利用者から学ぶことが多い。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から知り得た情報以外に、家族も知らなかった本人の想いを利用者と一对一の会話の中で知ることある。その方たちの気持ちを推し量りながら、できるだけ本人のペースで過ごしていただこうとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員が「気づきノート」を持ち、日々の関わりの中で気づいた変化や状態を書き止め、毎月のカンファレンスで話し合われている。また、家族の意向や希望をもとに主治医や管理栄養士の意見も取り入れ、個別の介護計画を作成郵送している。家族にも電話確認を含め報告し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に計画の見直しを各階ごとに行っている。状態変化が生じた場合は随時見直しが行われ、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	連携医療機関や他の医療機関への受診、リハビリやマッサージ、外出支援など対応している。また、学童保育、事業所内保育、デイサービス、デイケアなど同グループ全体の行事等への参加支援で事業所の多機能性を活かしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3ユニット入居者全員が事業所の協力医を主治医とし、週1回の往診を受けている。他に、内科、循環器、物忘れ等の往診も月1回あり、利用者の状況に応じた対応が可能で、本人・家族だけでなく職員の安心にも繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時にターミナルについて話し合っている。協力医との連携も図りながら、職員全員が終末期に向けた対応方針を共有している。今までに4名の方の看取りを経験している。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけは改まった敬語ではなく、極く自然にプライバシーを損ねないよう配慮しながら利用者に話しかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝・食事などの大まかな一日の流れはあるものの、利用者のペースで過ごしてもらっている。本人の希望で事業所内保育園児との散歩で腕章をつけ防犯パトロールをする人、買い物やベンチで過ごす人もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、片付けなどは職員と一緒にいき、3ユニットが同じメニューである。味付けは各階の利用者に味付けしてもらい職員も一緒に同じ食事を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができるようにしている。午前10時から午後5時の間を当て、入浴拒否や体調面でも入浴ができない方にも清拭や足浴・部分浴へとタイミングを見て身体の清潔を図っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設している学童保育の児童とのおやつ作り・かまどでご飯を炊く・畑仕事をする。また、洗濯ものを干す、たたむ等できる方にできることをしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、個々の希望にあわせて、公園、パン屋、コンビニ薬局、スーパーなどできるだけ外出の機会を作り支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため鍵をかけているが、日中鍵をかけることはしていない。しかし、徘徊の危険があるため各階にはセンサーを取り付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣、家族、学童保育の児童等の参加を得て訓練が行われ、利用者と一緒に外へ出る誘導も行なっている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立でバランスの良い食事を摂取している。食事記録を作り毎回の摂取状況を把握している。水分についても同様に水分不足がないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から入る日差しもほど良く、居間には掘りごたつとソファがあり和室と洋間がフラットになって、居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類の持込み制限はなく、使い慣れた家具、生活用品、家族の写真等が貼ってあり思い思いの物が持ち込まれて、利用者が安心して居心地よく過ごすことができる工夫をしている。		